

第 3 回 三宮構想会議 議事要旨

項目	内容
開催日時	平成 27 年 3 月 13 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
開催場所	三宮研修センター 8 階 805 会議室
出席者	26 名（委員 22 名、オブザーバー 4 名）
議事の目的	三宮周辺地区におけるまちづくりの方向性（案）及び駅前空間のあり方について自由に意見を交換する。
議事の内容	<p>■主な意見交換の内容</p> <p>○まちづくりの方向性（案）全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整が大変な方向を打ち出せば、直ちに反対が起こるのではないかと気にするあまり、非常にソフトにまとめている。もう少し思い切った提案をしてもよい。 もう少し現実的なスケジュール感が読めるような提案にした方がよい。 一体的な再開発をすることによって、地上の公共的空間を広げる、確保するという考え方が必要。 「未来の姿」検討委員会ではより広域的な都市像について検討されているが、その核としての三宮の役割をイメージしながら構想ができるといい。 神戸は、多様な地区が接続しているというところが特徴。 三宮を核に、地域の人たちの取り組みを推進力とするまちづくりの仕組み、仕掛けをぜひともつくってほしい。 再開発など何か事業が起こるときに合わせて公共空間をどう拡充していくかということを考えていかなければならない。そのためには、地域の中で「このような空間は大事にしたい」というビジョンを持っておく必要がある。 制度があるから、事業があるからものができるのではない。「何かが無いからできない」ではなく、「これを実現するためにはどうしたらよいか」というふうを考えていくべき。 まちの将来イメージを一度描いてみてもよいのではないかと。ただ、一度描くとそれができた気に皆がなくなってしまうことがあり、出し方は難しい。 どんな広場が欲しいとか、どんな歩行者空間で、車を止めてどんなまちにしたいといったことは、一度皆でイメージしてみることが大事。 地上案というのは、駅まち空間として打ち出すコンセプトとしては画期的。 ビルの中のエスカレーターやエレベーターなどをできるだけ関係させて、まちの中に同じ機能をたくさんつくらないようにすることで、空間を生み出す、あるいは賑わいを生み出すということが同時に起こり得る。 ファサード、建物の姿だけではなく、機能の連係、建物の使い方を含めた賑わいというものが今後求められていく。 駅前に特化した議論になってくると思うが、同時に 500 メートル圏内を忘れないでいたいとも思っている。

<p>議事の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あえて「駅＝まち」と言っているのは、駅前広場だけで考えているとなかなか解けないことも、オレンジのところまで人々の駅の空間だと考えることによってよりよい解決があるのではないかという一つの仮説の立て方だと思う。 <p>○歩行者空間のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人が地上空間を楽しく歩けるということが基本。 ・ シームレスに利用者が移動できる空間であるということが重要。 ・ 三宮は狭く、まちが駅に隣接している。歩いて楽しむまちへのアプローチを考えると、この距離感ではそんなにデッキを広げなくてよいと感じる。 ・ 車がなかったらお客さんが来ないという意見もあるが、歩けば車とはスピードが違うので、まちの見え方が変わる。歩かせて初めてお客さんが来てくれるということ、ミュンヘンでは1960年代に経験した。三宮の規模であれば、やってもよいのではないか。 ・ 駅前だけに閉じずに、周辺との関係性を見ながら、どこにどういう公共的な空間を生み出しながら歩行者の移動や乗り換えを良くしていくのかということを考えるべき。 ・ もうこれでデッキはなくなったという結論をここで持つことは避けてもらいたい。最後まで可能性の一つとしては残しておくべき。 ・ 姫路など他都市では駅舎が通過交通の壁になっているが、三宮は縦横に幹線道路があるので、その通過交通を遮断してまでいろんなデザインをやるということは到底不可能だと思う。今の三宮の状況を見ればデッキ案しかない。 ・ 今のフラワーロードの状況を見れば、トランジットモールを取り入れた姫路のようにはいかない。 ・ 阪急の西口から地上レベルに下りずに、2階以上のレベルからまちへのアプローチができれば、「渡る」という今の道の問題は軽減される。 ・ 道路をどうこうするのは長い時間をかけてやらなければいけない。 ・ 三宮交差点をどのように扱うのかによって、このまちの全体像が変わる。ここで人をどう渡すのかによって、人の流れは大幅に変わるような気がする。なので、徹底的に議論してみてもよいのではないか。 <p>○交通結節機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三宮エリアはコンパクトだが、高齢者が増えてくると、歩くのが大変だという人も増える。そういう方が利用できる、車ではない交通手段が必要。例えば、超小型車や、シクロタクシー、「どこでも車いす」の電動版など。 ・ 自転車での移動がスムーズになるような工夫も盛り込んだ「ひと中心のまち」ということができればよい。 ・ BRT、LRTは功罪半ばしており問題が大きい。 ・ タクシーは、バス等の公共交通機関と近い形で位置づけをお願いしたい。 ・ 私たちは、三宮駅からおりてすぐのところまでしか駅前だと思っていないが、(他都市の駅と比較すると)実は国際会館あたりまで駅前のスケールに入ってくる。であればそれ全体で絵を描いていくほうが正しいのではないかと思う。 ・ 国際会館まで歩くというのは交通アクセスとしては無理だと思う。 ・ 三宮は駅前空間が狭いので、バスターミナルはどこかに必要。
--------------	---

- ・ フラワーロードは坂道。山手に向かう交通アクセスを改善してほしい。
- ・ 高齢者、障害者の移動を考えれば、レールアンドバス、タクシーの乗り継ぎは、できるだけ距離が短いほうがベスト。
- ・ 三宮のこの狭いところに全部集約して、そこからだけの人の動きでよいのか。例えば東遊園地のあたりに観光バスを呼び込んで、そこから歩いて回っていただくというのも一つの考え方としてはあるのではないか。
- ・ 南北の交通機関が神戸は弱い。

○景観について

- ・ 「駅＝まち空間」をどう楽しい空間にしていくかという観点からは、交通の問題だけではなく、地上やデッキ、それぞれの視点場からの駅やその背景の見え方といった景観についても併せて考える必要がある。
- ・ 三宮の駅は、人々が憩える空間としての神戸の玄関口、顔である。その顔は、例えば海と山をつなぐ緑のプロムナード。
- ・ 緑のプロムナードという一つのメインロードをつくろうとすると、緑は広がって連続していかないといけない。それが居心地の良いパブリックスペースになるには、地面を大事にしないといけない。
- ・ 緑を植えていくには空間を創出していく必要があり、それには官民の協働が必要。
- ・ 機能性だけではなくて、三宮が玄関としてどう見えるか、空間のクオリティーがとても大事。
- ・ ビルを建てるにはある程度の高度利用をしないと採算的に難しい。かといって、目の前に広場をつくろうと言っているところに、あまりに高いビルはやはり不似合いではないか。
- ・ 三宮交差点の四隅だと、街角というものを意識した建物デザインも神戸の顔としては非常に重要。今後細やかなデザインコードのようなもので誘導していくということがあり得ると思う。

○三宮周辺地区に必要な都市機能について

- ・ ビルの建て替えに際してはR&D（研究開発）のような機能や（社会人向けの）学習の場の提供も検討してほしい。
- ・ 阪急の北側の広場は、ものすごく市民に好かれている場所になった。あのようなものがJR南側にもあったらいい。もう一つ北側にもあればいい。阪急の南側にもあればいい。
- ・ 三宮の駅前、その周辺にどんな機能が本当に要るのかという議論をすべき。
- ・ 次のステップでは三宮の周辺にどんな機能が必要なのか、あるいは展開する可能性があるのかというところにまで踏み込んでいく必要がある。
- ・ 学習施設なのか、商業なのか、病院なのか、神戸らしく人を集めるには何が中心となるべきかということがまず定まってほしい。

以 上